

1-2 白幡論理基礎

(1) 研究仮説

- ① 英語ディベートの経験を通して、事実や意見を多様な観点から考察し、表現方法を工夫することで、自分の考えを論理的に組み立て、的確に伝える力が向上するであろう。また、ディベートを通しての仲間との協働的な学びが周囲と協力して取り組む姿勢を涵養するであろう。
- ② BYODを活用し、オンラインで世界各国の講師と会話を行うことで、英語で話すことに対する積極性を養い、英語表現の幅を広げることができるであろう。

(2) 実践

- ア 実施日時：① 令和4年4月 ～ 10月（第1期） 令和5年2月 ～ 3月（第2期）
 ② 令和4年11月 ～ 令和5年1月
- イ 実施場所：各教室、会議室、白幡会館および各家庭
- ウ 参加生徒：高校1年 239名
- エ 実施内容：①-1 Show & Tell
 -2 Topic Speech
 -3 Opinionated Speech
 (Motion: *THW abolish school uniform.*)
 -4 Refutation
 -5 Structured Debate
 -6 Interclass Debate
 (Motions :
 THBT ebooks are superior to printed books.
 THBT living in the countryside is better than living in the city.
 THBT bathing should be done in the morning, not the evening.)
- ②：外部業者のオンライン英会話を行う。
実施後（前）の時間を使い、その日に学んだ単語や表現、使用した情報等を英語で共有する。（ペア、グループ、クラス）

(3) 評価

- ア 生徒アンケートより
1. ディベートの学習を通じて、相手を納得させる方法について学ぶことができた。

・非常にそう思う。 / そう思う。	61.2%
・あまり思わない。 / 全く思わない。	30.1%
・分からない。	8.7%
 2. ディベート活動を通じて、相手の説得に必要な情報等について、グループ（ペア）で話し合うことができた。

・非常にそう思う。 / そう思う。	74.4%
・あまり思わない。 / 全く思わない	23.5%
・分からない。	2.2%
 3. オンライン英会話を経験したことで、以前よりも英会話に抵抗が少なくなった。

・非常にそう思う。 / そう思う。	63.4%
・あまり思わない。 / 全く思わない。	25.7%
・分からない。	10.9%
 4. 年度当初と比べ、英語の表現の幅が広がった。

・非常にそう思う。 / そう思う。	70.0%
・あまり思わない。 / 全く思わない。	21.8%
・分からない。	8.2%

イ 参加生徒の感想（一部抜粋）

- ・初めは何を話せばいいかも分からなかったし、楽しくないと思っていたけど、慣れてくると、海外の人の話を聞いたり、自分から質問できるようになって楽しかったです
- ・ネットのトラブルなどで会話が上手くいかないときがあるから、画面越しではなくて直接話したいと思った。
- ・オンライン英会話では表現方法などの定着はあまりしなかったと思う。ただ、リスニングの練習や英語で会話することへの慣れには丁度良いと思った。
- ・最初は英語で初対面の外国人講師と話すのは抵抗があったし、うまく自分の考えをまとめて伝えることが出来ず、あまり楽しめなかったけど、徐々に日本語を英語に変換する思考回路のようなものや、英語の語彙も増えてきて、まだまだぎこちないけどある程度自分の意見を伝えることや会話を楽しむことはできるようになってきたことが、とても大きな収穫だと思う。聞くことに関しては、まだ慣れてない部分もあるし、本物の外国人と1対1で話せるのは貴重な機会でもあるので、自分の英語力向上にむけてがんばっていきたい。
- ・いまだに英語に抵抗感がありますが、オンラインで会話することで以前よりも表現力が高まり、会話中で使うべき単語が頭の中に浮かんでくるような感覚がするようになってきたため話すことが前よりも楽しくなりました。
- ・外国人と会話をする機会ができたのはとっても嬉しい。ただよく分からず終わってしまうことが多く、本当に自分の英語力が上がっているのか疑問に思う。でもすごく良いチャンスだとは思っている。
- ・習ってきた英語が実際に使えることが分かって嬉しくなりました。
- ・最初は海外の方と会話するなんてめったにない機会だし、しかも苦手な英語を使って初対面の人と話すなんてすごく不安だったけどどんどん回数を重ねていくうちに抵抗がなくなってきました。また、会話をしていくと言いたいことがうまく伝えられなかったりすると悔しくて次は伝えられるように自分で会話で使える表現を勉強したりして英語の勉強にこんなに意欲がわいたのは初めてでした。まだすぐに思ったことがスラスラ出てくるわけではないけど始める前よりも使える英語の幅も広がったと思うし即席で英文を作るのも少しは苦手意識がなくなりました。それに海外の人としゃべるとその国の文化などが知れて興味深かったです。
- ・もっと難しい内容のことを英語で話してみたいと思った。（例えば、日本の経済のことについてなど。）

ウ 考察

仮説①の「論理的思考と効果的伝達方法の習得」については、アンケート結果で「そう思う」と答えた生徒は 61.2%となり、3割程度の生徒が否定的であった。これは、interclass debate が行われるまで、ディベートマッチの全容がわかりにくく、何のための練習なのか、といった動機付けが十分ではなかったためかと思われる。第2期の授業展開にはこれらの生徒も変化を実感できるよう、改善を加えたい。また、ディベートの中で意見をまとめ、伝えるといった協働的学びについては、74.4%の生徒が「協力できた」と回答しており、概ね仮説を是認する結果となった。

仮説②については自由記述によるアンケート結果から、多くの生徒が肯定的な意見を示す一方で、「緊張して、毎週が憂鬱だった。」と答える者もあり、本人の性格や受け止め方により効果の実感に差があることも分かった。「英語で話すことへの抵抗感」については 63.4%の生徒が、「減少した」と回答し、「英語表現の幅」について肯定的に回答した生徒は 70.0%であった。「自分が思っているよりも話せなかった。もっと話せるようになりたい。」といった気づきもあり、receptive vocabulary だけでなく productive vocabulary も増やせるよう、能動的な語彙学習を促したい。

エ 今後の課題

英語でのディベートをより効果的な学習にするために、論理的に考え、英語での表現を磨き、相手の発言に対し迅速に反応することを意識して取り組ませたい。また、ディベート、オンライン英会話に限らず、日々の英語の授業やその準備が有機的に結びつくような活動を提供することが重要であると考えられる。